

野川整備工事（その203）工事説明会の議事要旨

1 開催概要

【第1回目】

日時	令和7年3月19日（水曜日）18時00分～19時00分
場所	世田谷区鎌田区民集会所（世田谷区鎌田2-1-14）
参加人数	12名

【第2回目】

日時	令和7年3月25日（火曜日）18時00分～20時00分
場所	野川インフォメーションセンター（世田谷区玉川3-42）
参加人数	3名

【第3回目】

日時	令和7年3月27日（木曜日）14時00分～17時00分
場所	野川インフォメーションセンター（世田谷区玉川3-42）
参加人数	4名

2 主なご質問・ご意見と都の回答（要旨）

【第1回目 3月19日 世田谷区鎌田区民集会所】

ご質問・ご意見	都の回答
多摩川の堤防嵩上げ工事はいつ完了予定か。また、野川護岸整備事業のスケジュールを教えてください。	国交省所管の多摩川堤防嵩上げ工事は令和7年度完了を目指して施工中と聞いています。 また、野川護岸整備事業は現在のところ、橋梁部は整備対象3橋（天神森橋・野川水道橋・吉澤橋）の嵩上げ工事が完了しており、護岸部は吉澤橋下流左岸が完了しています。その他の箇所についても順次進めているところではありますが、吉澤橋付近で地中に支障物が見つかったことや施工中の通行をどうするかなどの課題も判明してきています。地域の皆様にはご心配をおかけし大変申し訳ありませんが、そうした課題をしっかりと検討した上で、完了時期について改めて説明の場を設けたいと思います。

<p>伐採の対象となる樹木はどこか。また、桜剪定の考え方は。</p>	<p>野川水道橋下流右岸にある上流側仮設ヤード予定地に生えている樹木が伐採の対象です。 また、桜は重機の作業範囲にかかる枝を剪定します。</p>
<p>場所打杭の杭長はいくつか。またその長さにした考え方は何か。</p>	<p>杭長は8.5m～11.0mです。杭長の考え方は、多摩川計画堤防高(A. P. +17.205m)まで水位が上昇した際の水圧に耐えられる構造を検討し、長さを決定しています。</p>
<p>通行止めはいつからか。また、通行止め区間は通学路となっているが、近隣の学校とは調整済みか。</p>	<p>4月上旬より家屋調査を開始し、通行止めは5月中旬頃を予定しています。 また、近隣の二子玉川小学校、砧南小学校、砧南中学校と打ち合わせを行い、通学路通行止めと迂回路について了解をいただいています。</p>
<p>上流側仮設ヤードの盛土高はどのくらいか。また重機が置けるように固めるのか。</p>	<p>盛土高は、既設護岸高と同じ高さまでとする予定です。また重機を配置するため、締固めを行います。</p>
<p>既設護岸の一部撤去を行うが、工事中の高さ確保はどう考えるか。</p>	<p>河川水位が上昇しても工事現場から水が出ないように、既設護岸の高さまで大型土のうを積んで高さ確保します。</p>
<p>大型土のうを設置する地盤は出水時の浸食対策としてコンクリートで補強するなどの対策は行うか。</p>	<p>現地の施工状況を見て、補強が必要であれば検討していきたいと考えています。</p>
<p>工事車両の搬入は上・下流のどちらから行うか。</p>	<p>上流側・下流側の両方から搬入予定です。</p>
<p>家屋調査の周知方法は。</p>	<p>家屋調査を行う予定のご家庭に、事前の『お知らせ』を配布し、意向確認を行ってから調査に入ります。</p>

<p>アクリル板を選定した理由は何か。また強度やくもりについては問題ないのか。</p>	<p>嵩上げ方法は区や環境団体等と調整し、護岸天端までコンクリートで嵩上げしてしまうと自然豊かな野川の景観を損ねると考え、透明なアクリル板を採用しました。また、アクリル板は水族館の大きい水圧にも耐える材料であり、都内では新河岸川、他県では埼玉県でも採用実績があるため、強度的には問題ないと考えています。くもりについては、吉澤橋の既設アクリル板は設置から15年以上経過しても透明度を維持していたことから問題ないと考えています。</p>
<p>嵩上げ高の高い下流部は仕方ないと思うが、上流部についてはアクリル板での嵩上げはやめてほしい。</p>	<p>上流部についても、すべてコンクリートで嵩上げした場合に景観を損ねると考えており、下流部と同じく基礎コンクリートの上にアクリル板で嵩上げする方法を採用し、景観に配慮した整備を行っていきます。 (※補足：説明会で配布した資料にあるとおり、嵩上げ高が0.5m未満の場合、既設護岸にコンクリートを増し打ちすることで嵩上げします。)</p>
<p>通行止めは24時間か。</p>	<p>工事現場は資機材が配置され、また掘削箇所があるなど一般の方にとっては危険な状況となります。このため、常時通行止めとします。</p>

【第2回目 3月25日 野川インフォメーションセンター】

ご質問・ご意見	都の回答
全ての箇所でアクリル板での嵩上げを行うのか。	嵩上げ高が0.5m未満の場合、既設護岸にコンクリートを増し打ちすることで嵩上げします。嵩上げ高が0.5m以上の場合、既設護岸とは別に構築した基礎コンクリートの上にアクリル板を設置し、嵩上げを行います。
場所打杭の施工時は振動があるのか。	所定の深さまでドリルで削孔する際に多少の振動が発生します。振動騒音規制法や東京都環境確保条例に基づき、十分注意して作業を行っていきます。
杭と杭の間隔は。	約1.5m間隔です。
桜の近くを掘削するが、倒れたりしないか。	桜の幹から掘削箇所まで十分な離隔を確保しているので、問題ないと考えています。
上流側仮設ヤードは盛土して造成するが、工事が終了したら元通り復旧してしまうのか（工事終了後も残してほしい）。	設計では元通り復旧することを予定していますが、地域の皆様のご意見で残した方がよいということであれば検討します。
今回工事では野川水道橋から上流側仮設ヤードまでの区間は工事範囲外となっているが、本工事に含めることはできないのか。	この区間はお住まいの方の日常的な車の出入りがあり、迂回も難しいため、通行止めを行った際の影響が大きいと考えています。工事期間中の交通確保についてしっかり検討した上で、今後発注していきたいと考えています。

【第3回目 3月27日 野川インフォメーションセンター】

ご質問・ご意見	都の回答
吉澤橋から野川水道橋までの区間(右岸側)について、車が通れるのはどこなのか。	本工事の工事範囲(約300m)以外の範囲は、通常通り車が通行できます。
現場着手はいつか。	4月上旬より家屋調査を行い、重機を伴った作業は5月中旬頃の開始を予定しています。
河川内に樹木や堆積土砂があり、洪水が心配である。撤去してもらいたい。	河川内の樹木や堆積土砂撤去の管理者である世田谷区に話をしておきます。

以上